

第 10 回目

2012 年 8 月 24 日 (金曜日)

18:00 ~ 19:00

元安橋東詰からスタートし本通り、金座街を往復します。毎週金曜に歩きます。

飛び入り歓迎
槍が降ったら中止します

広島 2 人デモ

雨天
決行

いてもたってもいられなくなった仕事仲間と恥も外聞も捨てて仕事の合間にたった 2 人でも歩く。

それが 2 人デモです。黙っていたら社会人としてだけではなく、企業人としても恥。

野田首相！あなたは恥を知るノダ！

調査・文責：哲野イサク
チラシ作成：網野沙羅
連絡先：sarah@inaco.co.jp



http://www.inaco.co.jp/hiroshima_2_demo/

原発をただちに封印しよう、それが最良の取引だ

関電大飯原発再稼働の後、次の原発再稼働のメドが立たないので経済界からは悲鳴があがっています。もちろん電気が足りなくなるからではありません。大きな「ビジネスチャンス」がみすみす失われるからです。営々として築いてきた既得権益が失われるからです。経団連も経済同友会も日本商工会議所もそろって野田政権に再稼働圧力をかけています。それほど「原発ビジネス」は日本の経済界に深く根づいているのです。上場企業で原発ビジネスに直接・間接に関与していない企業を見つけるのはむづかしいくらいです。日本経済の巨大な下請け構造を考えれば原発再稼働を待ち望む経営者のいかに多いことか。ましてや再稼働のメドが立たず、今ある原発が廃炉と決まれば、関電などは数年を経ずして倒産です。莫大な廃炉費用を考えれば、関電の現在の資産内容では債務超過に陥るのは必至だからです。

証券市場は関電を見放し始めています。今年 2 月 17 日 1 株 1445 円だった関電の株価は大飯原発 3、4 号機がフル稼働したにもかかわらず、7 月末には 527 円に急落しています。関電にとって原発再稼働は生命線です。

関電 黙っていたら “YES” と同じ

嘘で固めた大飯原発再稼働は即刻取消を

今すぐ原発に封印をそれが最良の取引です

放射能の恐怖がある限りその社会に未来はない

広島にも三菱重工、広島銀行、中国電力、パブコック日立、大手建設会社など原発ビジネスと深く関わっている企業が数多くあります。それらの関連企業や下請け企業、あるいはその地域社会などは密かに原発再稼働を熱望しています。

彼らはいいます。「ものごとを現実的に見る。原発ビジネスがなくなったらどうやってメシを食っていくのだ。どうやってビジネスを拡大していくのだ。地域社会をどうやって発展させるのだ。原発反対、などとはビジネスや現実を知らない人間のたわごとだ」

しかし彼らこそ近視眼的であり非現実的です。これから日本は福島第一原発から放出された放射能と戦っていかなくてはなりません。その上、原発事故の恐怖と隣り合わせの社会にどんな未来があるのでしょうか？人々が放射能の恐怖や健康被害と向き合わなければならない社会にどんな経済発展が見込めるのでしょうか？30年、50年のスケールで考えればそんな社会に未来はありません。いまこそ原発をすべて廃炉にし、恐怖の根源を絶ちきるこそ現実的で冷静な判断です。

すべての原発を今すぐ封印してしまうこと、これが未来へ向けて私たちがなすべき最良の取引です。

野田政権・関電・関西広域連合「電力不足」そのウソの手口

【手口 1】 需要の捏造

需要が最大だった 2010 年 8 月を基準としました。この時ピーク電力は 3095 万 kW でしたが、節電効果は 2.1% とし、「2010 年並の猛暑ではピーク需要は 3030 万 kW (後に 3015 万 kW に訂正) としました。しかし「3.11」後の 2011 年夏のピーク需要はすでに 2784 万 kW だったのです。2011 年度を基準としたのでは「電力不足」のウソが成り立ちません。2012 年、実際は 8 月 3 日の 2681 万 kW が最大でした。こうして約 300 万 kW の需要を捏造しました。

【手口 2】 供給の過小評価

今度は 2011 年の最大供給量をもとに 2012 年の最大供給量は 2535 万 kW としました。実際に原発なしで関電は 2536 万 kW の電力生産能力があります。それに他電力会社からの融通電力を 126 万 kW 受電。実はその他に関電管内の独立系電気事業者と 500 万 kW 以上の購入契約を結んでいます。関電はもともと原発なしで 3111 万 kW 以上の供給能力を持っていたのです。こうして供給能力を 500 万 kW 以上も偽って過小評価しました。(裏面参照のこと)

<手口 3 裏面につづく>

原発除く関電の供給能力 ピーク時 **3,111 万 kW 以上**
実際最大使用は ピーク時 **2,681 万 kW**

「原発なしで電力足りない」はウソでした。

政府・関電・関西広域連合・大手マスコミのウソを今、検証しておく必要があります。

【手口3】関西広域連合の協力

政府や政府第三者需給検証委員会、関電の需給予測は全く信頼されず、それまで政府と対決姿勢を見せていた橋下徹大阪市長と関西広域連合の検証結果に世間の期待は集まりました。検証結果は、ほぼ政府・関電の需給予測と同じものでした。それは子ども騙しの杜撰なものでした。橋下氏は「やっぱり電力が足りない」と「降参宣言」を出し、大飯原発再稼働を容認。橋下氏と関西広域連合は、政府・関電、関西財界とグルでした。

関西電力 ピーク時電力供給量と内訳 (2012年8月2日から8月22日)

2012年		「最高気温」は関電発表のその日の最高気温						火力発電		水力発電		揚水発電		原子力	他社受電					
		認可最大発電設備能力						1,691		378		442		977	融通電計					
日付	曜日	最高気温	ピーク時供給実績	ピーク時使用実績	ピーク時刻	電気使用率	ピーク時	ピーク時率	ピーク時	ピーク時率	ピーク時	ピーク時率	一定出力	ピーク時	内非融通	率	融通電計			
																	中部	北陸	中国	
8月22日	水	34.7℃	2,986	2,565	15:00	85.9%	1,370	81.0%	258	68.3%	424	95.9%	236	699	552	79.0%	147	76	7	64
8月21日	火	34.4℃	2,943	2,549	14:00	86.6%	1,370	81.0%	258	68.3%	391	88.5%	236	688	541	78.6%	147	76	7	64
8月20日	月	34.8℃	2,984	2,492	15:00	83.5%	1,332	78.8%	254	67.2%	448	101.4%	236	714	554	77.6%	160	76	7	77
8月19日	日	34.4℃	2,695	2,068	19:00	76.7%	1,095	64.8%	236	62.4%	448	101.4%	236	666	469	70.4%	197	166	2	29
8月18日	土	34.9℃	2,784	2,326	13:00	83.5%	1,154	68.2%	247	65.3%	408	92.3%	236	739	498	67.4%	241	170	22	49
8月17日	金	36.5℃	2,741	2,518	15:00	91.9%	1,212	71.7%	245	64.8%	364	82.4%	236	683	555	81.3%	128	65	6	57
8月16日	木	34.0℃	2,635	2,203	16:00	83.6%	1,178	69.7%	234	61.9%	356	80.5%	236	632	524	82.9%	108	65	6	37
8月15日	水	32.3℃	2,500	2,004	19:00	80.2%	1,108	65.5%	247	65.3%	353	79.9%	236	558	517	92.7%	41	10	2	29
8月14日	火	29.7℃	2,379	1,948	19:00	81.9%	1,123	66.4%	244	64.6%	337	76.2%	236	440	413	93.9%	27	10	2	15
8月13日	月	33.0℃	2,455	2,074	19:00	84.5%	1,170	69.2%	243	64.3%	371	83.9%	236	436	409	93.8%	27	10	2	15
8月12日	日	34.6℃	2,468	2,066	19:00	83.7%	1,085	64.2%	242	64.0%	432	97.7%	236	473	446	94.3%	27	10	2	15
8月11日	土	32.7℃	2,786	2,123	15:00	76.2%	1,116	66.0%	238	63.0%	448	101.4%	236	730	489	67.0%	241	170	22	49
8月10日	金	33.8℃	2,890	2,477	14:00	85.7%	1,303	77.1%	252	66.7%	432	97.7%	236	668	527	78.9%	141	76	6	59
8月9日	木	34.2℃	2,847	2,434	16:00	85.5%	1,273	75.3%	250	66.1%	424	95.9%	236	664	522	78.6%	142	76	7	59
8月8日	水	34.6℃	3,002	2,410	14:00	80.3%	1,415	83.7%	252	66.7%	432	97.7%	236	666	524	78.7%	142	76	7	59
8月7日	火	34.4℃	3,026	2,528	14:00	83.5%	1,435	84.9%	256	67.7%	406	91.9%	236	693	551	79.5%	142	76	7	59
8月6日	月	36.0℃	3,023	2,625	15:00	86.8%	1,435	84.9%	246	65.1%	448	101.4%	236	659	517	78.5%	142	76	7	59
8月5日	日	33.3℃	2,488	2,144	17:00	86.2%	1,078	63.7%	234	61.9%	281	63.6%	236	660	457	69.2%	203	164	3	36
8月4日	土	34.8℃	2,759	2,296	14:00	83.2%	1,195	70.7%	248	65.6%	337	76.2%	236	742	492	66.3%	250	170	24	56
今夏最高	8月3日	金	2,999	2,681	14:00	89.4%	1,433	84.7%	253	66.9%	357	80.8%	236	719	559	77.7%	160	76	7	77
	8月2日	木	2,859	2,650	15:00	92.7%	1,375	81.3%	249	65.9%	402	91.0%	236	696	556	79.9%	140	76	7	57
ピーク時平均			2,774	2,342		84.4%	1,250	73.9%	247	65.3%	395	89.4%	236	649	508	75.7%	141	84	8	49

夏休みモード

今夏最高

1. 関西電力の「原発」と「新エネルギー」を除くピーク時最大発電能力は、火力、水力、揚水合計2511万kW。(認可発電設備ベース)
2. 他社受電は、IPP(独立発電事業者)、自家発電設備などからの契約による購入あるいは余剰電力の購入及び他電力会社からの融通電力。
3. 関電は「ピーク時供給力とは、ピーク時に発電できる最大電力のことです。発電設備量とは一致しないことにご注意ください。」と説明しているが、これはおかしな説明。もしこの説明が正しいとするなら、土曜日・日曜日は「ピーク時に発電できる最大電力」が、都合良く下がることになる。また現実には8月9日は、相生発電所2号機(38万kW)、海南発電所2号機(45万kW)同4号機(65万kW)御坊発電所1号機(60万kW)の計208万kWは点検でも故障でもないのに全く稼働していなかった。
4. また水力「発電設備量」と「ピーク時供給力」は必ずしも一致しません。」として、流域河川の水量が足りないケースを上げている。しかしこの説明もおかしい。流域河川の「出水率」を明示していない上に、過去1ヶ月間の水力発電量は270万kWから230万kW程度になだらかに下がっている。これは原発3号機・4号機がフル稼働にはいるのと逆比例している。すなわち原発がフル稼働となるにつれ生ずる余剰を水力発電を抑制することで調整していると考えられる。
5. 「電気使用率」はその日ピーク時供給量に対する使用量の比率。もともと供給予測をたてて供給量そのものを調整しているのでデータとしては無意味。
6. 興味深い現象は、他社受電が一向に減らないどころかむしろ上がっていることだ。需要の下がる土日になると他社受電が上がり、中でも中部電力が突出して上がっている。これは中部電力との契約で中部電力管内の余剰を関電が引き受ける契約になっていることを意味する。また独立発電事業者との契約は恐らく一定量を引き受けるものとなっていると思われる。
7. 従って関西電力のピーク時最大電力供給能力は、原発を除く自社発電能力2511万kWに他社受電600万kW以上を加え、確実に3111万kW以上と推計できる。
8. 資料出典は関西電力ホームページ「でんき予報」の「過去の使用電力実績ダウンロード」及び「関西電力有価証券報告書 平成23年」

8月16日(夏休みモード)の運転停止火力発電所		
喜撰山発電所	1号機	▲15万kW(作業)
喜撰山発電所	2号機	▲15万kW(作業)
相生発電所	1号機	▲38万kW
相生発電所	2号機	▲38万kW
堺港発電所	2号機	▲36万kW(作業)
海南発電所	1号機	▲45万kW
海南発電所	2号機	▲45万kW
海南発電所	4号機	▲20万kW
他社電源		▲28万kW
計320万kW		
8月16日(夏休みモード)の出力抑制発電所		
赤穂発電所	2号機	▲15万kW(作業)
海南発電所	3号機	▲20万kW(作業)

8月23日(平常モード)の運転停止火力発電所		
相生発電所	1号機	▲38万kW
海南発電所	1号機	▲45万kW
海南発電所	2号機	▲45万kW
計128万kW		
8月23日(平常モード)の出力抑制発電所		
赤穂発電所	2号機	▲15万kW(作業)